

## 1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために協議会を設置し、様々な視点から意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進します。
- ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させて改善に努めることで、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- ③ 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。
- ④ 教育を取り巻く社会情勢は、大きく変化しています。新たな教育課題について、学校外からの視点も参考にし、課題解決に向けて取り組みます。

## 2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

1年生は、農園活動、福祉体験（視覚障害のある方からのお話とサウンドテーブルテニスの体験・交流）等に取り組んだ。学校にある吉田山の畑を活用した農園活動を毎年実施しています。各種野菜を植え、学年全体で収穫を行った。種や苗を植え、除草、収穫など、家庭生活では農作業をあまり体験していない生徒達には、貴重な経験となっている。福祉体験学習では、高齢者福祉や障がい者福祉についてクラスで学習を行いました。



また、福祉についての理解を深めるため、四日市市社会福祉協議会の協力を得て、視覚障害を持つ方に来ていただき、ご自分の経験をお話ししていただいた。また、サウンドテーブルテニスを障がいのある方とともに体験し、交流をした。実際に障がいのある方から直接話を聞くことで、障がいを持っている方が自己実現を図って充実した生活を送っていることや福祉の重要性を知ることができました。



### 《ザ・プロフェッショナル（職業講話）》

毎年、PTAが講師の選定・依頼・受付接待などを行っています。保護者のネットワークで、地域で活躍する技芸サービス・教育・芸能・体育スポーツ・農林水産等多彩な分野の講師を毎年選んでもらっています。生徒たちは目を輝かせて話を聞いていました。



### 《マナー講座》

ブライトブーケから講師を招き、マナー教室を開催しました。マナーの重要性・今後の人生に役立つマナーのお話を中心に、相手に良い印象を与えるかは、最初の1分で決まる等、丁寧にマナーについての講義をしていただきました。



### 《職場体験学習》

2年間コロナ禍の為実施できなかったが、本年度は四日市市内の事業所やお店、計59ヶ所で職場体験学習を実施することができました。また、コロナ禍の影響が少なからず残っており体験を引き受けて頂けない事業所もある中、様々な業種の事業所が協力をしていただきました。各事業所にお問い合わせしたアンケートでは、おおむね熱心に生徒は活動していたと回答していただきました。学校だけでは学ぶことができないことを貴重な体験を通して学ぶことができました。



### 《吉田山環境整備作業》

PTAを中心に年間2回土曜活動として実施する予定でしたが、第2回は台風の影響のため残念ながら職員と生徒だけの活動となりました。当日は、職員が事前に草刈りをしたものを生徒が袋詰めしたり、グラウンド周辺の草抜きをしたりしました。また、保護者のみなさまには、校舎周辺や通学路の草抜きをしていただきました。



### 《凧づくり・凧あげのボランティア》

常磐地区社会福祉協議会の家族ふれあい事業の凧づくり・凧あげのボランティアに美術部と福祉委員会の生徒が参加しました。常磐地区の御家族とともに参加し、事前に美術部が作成した凧をお手本として、各々が描いた個性豊かな凧を大空にあげる補助をしました。



### 《竹馬整備ボランティア》

常磐地区社会福祉協議会文化教養部が開催している伝承文化(昔遊び)交流会に使用する『竹馬づくり』に福祉委員会や有志の生徒19名が参加しました。最初は、調整の仕方がわからない様子がありましたが、協議会の方や友人に教えてもらいながら調整することができました。出来上がった竹馬は、伝承文化交流会で小学1年生が使用しました。



## (2) コミュニティスクール(運営協議会)の取組による効果

令和2年度よりコミュニティスクール(運営協議会)が発足し、地域の方と生徒との繋がりが深まる取組を計画していただくことができました。その反面、コロナ禍の影響により、参加させていただいていた防災訓練等の催しに参加することができず残念なこともありました。その中で、委員の方を中心とした働きかけのおかげで、地域行事に参加させていただき、感謝しております。運営協議会を置くことにより、豊富な知識や経験を持つ地域で活躍されている方々などに本校の教育活動や生徒の様子を知っていただくことで、様々な意見や支援をいただくことができました。また、私たちも多様な視点で学校を見ることで、地域の方の願いや期待を知ることができました。

また、学校内での取組としては、美術部や福祉委員会の活動として、地域行事への参加を募り、生徒への意識付けとしました。参加することで自己有用感を得て、前向きに参加する生徒が増えました。本校では、普段の生徒の活動を見ていただけるように運営協議会の開催は、生徒の活動している時間に行うようにしています。今後も、学校運営協議会が参画していくことで、より地域とのつながりが強くなり、子どもを地域で育てる仕組みが強化されると考えています。

## 3 今後に向けて

今後の活動での課題として、以下の三つを考えています。

一つ目の課題は、地域行事に積極的に参加する生徒が少ないことです。今後、委員会活動を中心に参加を増やしていけるよう工夫をしていきます。

二つ目の課題は、職員にコミュニティスクール(運営協議会)の意義が浸透していないことです。3年目になりますが、業務改善という意識もあり、休日に地域行事に積極的に参加する職員がいません。管理職が教員とのパイプ役を務めるのみに終わっていません。継続してコミュニティスクールの取組が職員の中に定着するように取組ごとに担当職員を参画させていきます。そのためには、勤務時間内に参加できる行事等を考える必要があります。多くの職員が地域行事を知り、活動の意義を再確認できることで、生徒の参加も増えてくると考えています。

三つ目の課題は、学校公開日に参観していただく保護者・地域の方々が限られていることです。事前に案内を配付するだけでなくHP等を通じて昨年の取組の様子を伝えたりするなど、参観していただきやすい方法を今後も継続して模索していきたいと考えています。